

## 令和6年度 地歴・公民科初任者研修会 (報告)

1. 実施日時 令和6年9月25日(木) 13:50~16:30 (受付13:30~)
2. 研修会場 三島学園知徳高等学校  
駿東郡長泉町竹原 354 電話 055-975-0080
3. 対象者 社会科及び地歴・公民科新任教員(1~5年目)等
4. 研修テーマ 「深い学びの実現に向けた地歴・公民科教育」
5. 授 業 授業者 知徳高等学校 教諭 鈴木宣康  
科 目 「地理総合」  
授業名 「米と小麦の生産と輸出をみてみよう」  
クラス 創造デザイン科3年(3T)
6. 講 演 「高校社会科教育の動向」  
静岡県教育センター 教育主査(指導主事) 加藤博己 様
7. 内 容 13:30~ 受付(会議室)  
13:50~ 部会長挨拶、日程・会場説明等  
14:10~ 移動  
14:20~ 公開授業(6時間目相当、~15:10)  
15:30~ 趣旨説明、授業者より  
15:40~ 講演及び講評  
16:10~ 質疑応答  
16:30 解散

### 【公開授業の様子】



<見学者が多数のため、会議室で実施>



<生徒が考える時間が多くとられました>

## 【講評・講演の様子】



## 【アンケート抜粋】

### 〈授業に関すること〉

- ・地理総合の授業の中での考える時間の取り方や長さ、生徒たちがどのような考えを核にするのか参考になった。
- ・今までは授業での「問い」に対して敬遠しがちな部分もあったが、授業を通じて育てていく必要があり、最初は我慢も必要だったり、学校の実情に合わせてよいことが分かった。勤務校でも取り組んできたい。
- ・授業の「問い」の大切さを実感できた。いつも気を付けているが、「問い」は地理においては特に難しい。
- ・教員があくまでサポートに徹している姿勢の授業であった。私自身そのような授業を目指しており、参考になった。
- ・グラフや地図をもとに読み取っていく作業は自分も取り入れてみたいと思った。
- ・資料を読み取る作業など、土台ができていないと困るものを、みんなで積極的に考えており、普段からこのような授業の取り組みをしていること、失敗してもよい環境づくりをしているのだと感じた。

### 〈講演に関すること〉

- ・学習指導要領の解説で分かりにくかった部分を深く学ぶことができました。
- ・講演の中で示された「考える視点」について、具体的に考え授業で取り入れてみたいと思います。
- ・学習指導用要領での「問い」の位置づけと、それをどう実践していくのかについて具体的な事例を学ぶことができ良かった。
- ・地理歴史科の授業において、「歴史総合／日本史探究／世界史探究」については必ず教科書の最後まで取り組む必要があるという指摘をうけ、改めて年間指導計画を精査していきたい。